

埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書

—令和元年度—

2020

千葉市教育委員会

例　言

- 1 本書は令和元年度埋蔵文化財調査（市内遺跡）の報告書である。
- 2 発掘調査は、千葉市が市域の開発事業に対し、埋蔵文化財の取り扱いについての適切な措置を講じ、保護を図るために国庫の補助を受けて実施した。調査組織は次のとおりである。

事業主体者及びその組織

千葉市（主管）千葉市教育委員会生涯学習部文化財課

教育委員会事務局

教育長	磯野 和美
教育次長	神崎 広史
生涯学習部	
部長	潮見 尚宏
文化財課	
課長	滝田 希成
課長補佐	児玉 隆一
特別史跡推進班	
主査	森本 剛
主任主事	須賀 真弓
主任主事	石井 健一
主任主事	森山 夏希
文化財保護班	
主査	西田 聰
主任主事	武田 芳雅
主事	八木澤 美有
主事	青笹 早季
-----	埋蔵文化財調査センター
所長(嘱託)	西野 雅人
主査	白根 義久
主任主事	山下 亮介
主任主事	松田 光太郎
主事	井出 祥子
嘱託員	難波 美由紀
嘱託員	戸村 正己
嘱託員	菅谷 通保
嘱託員	石渡 麻希
嘱託員	香川 一步

- 3 市内遺跡とは、市内に所在する旧石器時代から中近世に至る遺物包含層・貝塚・集落跡・古墳・塚・野馬土手・城館跡等を包括したものである。
- 4 本書の執筆・編集は西野雅人が行った。
- 5 各遺跡の調査により出土した遺物及び作成した図版・写真は、千葉市埋蔵文化財調査センターで保管している。

目 次

例 言

目 次

はじめに.....	1
1 うならすず遺跡.....	4
2 種ヶ谷津遺跡.....	5
3 坪ノ内遺跡.....	7
4 味噌草野遺跡.....	8
5 古山遺跡.....	9
6 栗山遺跡.....	10
7 榎作遺跡.....	10
8 大谷遺跡.....	12
9 生実城跡.....	13
10 広ヶ作遺跡.....	14

写真図版

報告書抄録

挿図・表目次

第1図 発掘調査遺跡位置図.....	3
第2図 うならすず遺跡地形図.....	5
第3図 うならすず遺跡遺構配置図.....	5
第4図 種ヶ谷津遺跡地形図.....	6
第5図 種ヶ谷津遺跡遺構配置図.....	6
第6図 坪ノ内遺跡地形図.....	7
第7図 坪ノ内遺跡遺構配置図.....	7
第8図 味噌草野遺跡地形図.....	8
第9図 味噌草野遺跡遺構配置図.....	8
第10図 古山遺跡地形図.....	9
第11図 古山遺跡遺構配置図.....	9
第12図 栗山遺跡地形図.....	10
第1表 出土遺物.....	14・18
第13図 栗山遺跡遺構配置図.....	10
第14図 榎作遺跡地形図.....	11
第15図 榎作遺跡遺構配置図.....	11
第16図 大谷遺跡地形図.....	12
第17図 大谷遺跡遺構配置図.....	12
第18図 生実城跡地形図.....	13
第19図 生実城跡遺構配置図.....	13
第20図 広ヶ作遺跡地形図.....	15
第21図 広ヶ作遺跡遺構配置図.....	15
第22図 出土遺物(1).....	16
第23図 出土遺物(2).....	17
第24図 出土遺物(3).....	18

写真図版目次

写真図版 1	1～4	うならすず遺跡	3～7	大谷遺跡	
	5～8	種ヶ谷津遺跡	8	生実城跡	
写真図版 2	1～2	種ヶ谷津遺跡	写真図版 6	1～2	生実城跡
	3～7	坪ノ内遺跡		3～8	広ヶ作遺跡
	8	味噌草野遺跡	写真図版 7	1～8	広ヶ作遺跡
写真図版 3	1～2	味噌草野遺跡	写真図版 8	うならすず遺跡・各遺跡出土遺物	
	3～6	古山遺跡	写真図版 9	坪ノ内遺跡・栗山遺跡出土遺物	
	7～8	栗山遺跡	写真図版 10	榎作遺跡出土遺物	
写真図版 4	1～2	栗山遺跡	写真図版 11	大谷・生実城跡出土遺物	
	3～8	榎作遺跡	写真図版 12	広ヶ作遺跡出土遺物	
写真図版 5	1～2	榎作遺跡			

はじめに

千葉市では、市域の開発事業に対して、埋蔵文化財の取扱いについて適切な措置を講じるため、昭和63年度から国庫の補助を受け、民間の開発事業に先立ち、市内に所在する遺跡の規模や性格を把握することを目的とした発掘調査を実施している。

本書は、その発掘調査の成果をまとめたものであり、今回は平成30年度の5遺跡と令和元年度の5遺跡、計10遺跡の発掘調査の成果を報告する。対象遺跡の概要は以下の通りである。

1 うならすず遺跡

調査の種類	確認調査
調査地	千葉市若葉区多部田町1175、1176-1の一部
調査の原因	その他の開発（墓地造成）
原因者	宗教法人最福寺
調査担当者	井出祥子
調査期間	平成31年1月21日～1月30日
調査面積	960 m ² のうち80 m ²

2 種ヶ谷津遺跡

調査の種類	確認調査
調査地	千葉市中央区生実町2548-4他
調査の原因	その他の開発（グラウンド整備）
原因者	学校法人千葉明徳学園
調査担当者	井出祥子
調査期間	平成31年2月4日～3月1日
調査面積	7,828 m ² のうち710 m ²

3 坪ノ内遺跡

調査の種類	確認調査
調査地	千葉市稻毛区園生町607他
調査の原因	その他の開発（太陽光発電施設建設）
原因者	個人
調査担当者	長原亘
調査期間	平成31年2月19日～3月1日
調査面積	2,486 m ² のうち184 m ²

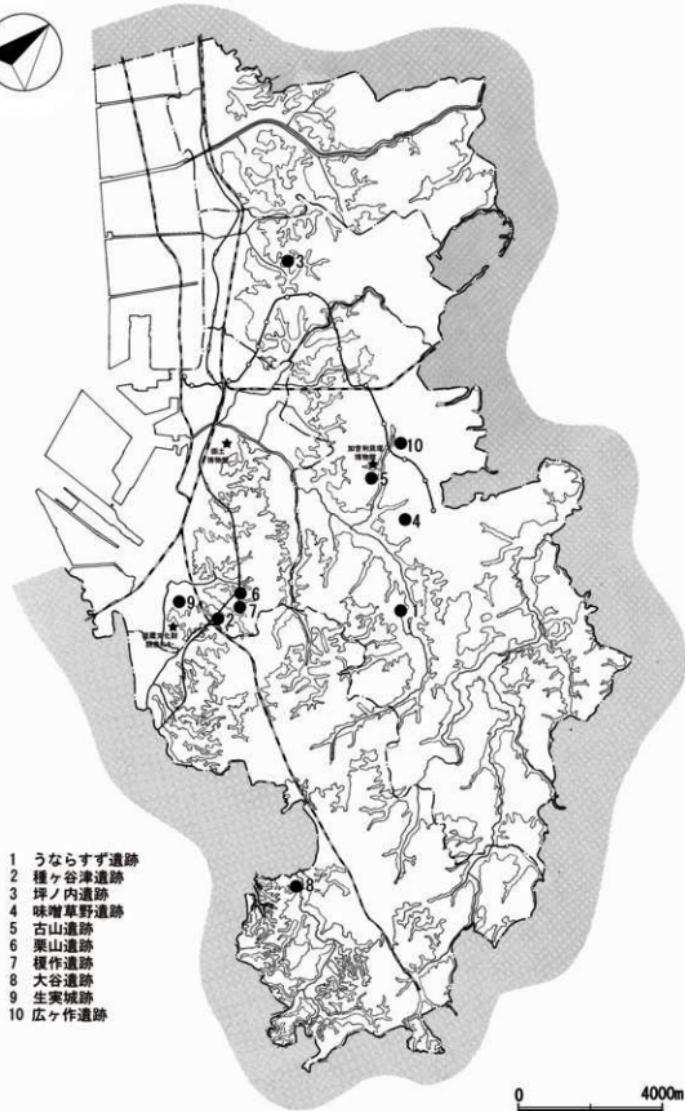
4 味噌草野遺跡

調査の種類	確認調査
調査地	千葉市若葉区坂月町316-2他
調査の原因	集合住宅建設
原因者	個人
調査担当者	松田光太郎
調査期間	平成31年3月19日～3月22日
調査面積	810.49 m ² のうち65 m ²

5 古山遺跡

調査の種類	確認調査
調査地	千葉市若葉区加曾利町1800番138他
調査の原因	個人住宅建設
原因者	個人

	調査担当者	松田光太郎
	調査期間	平成31年3月8日～3月11日
	調査面積	394.05 m ² のうち38 m ²
6	栗山遺跡	
	調査の種類	確認調査
	調査地	千葉市中央区花輪町16番1
	調査の原因	その他建物（建売住宅）建設
	原因者	アイディイホーム株式会社
	調査担当者	松田光太郎・香川一歩
	調査期間	令和元年5月8日～5月13日
	調査面積	597 m ² のうち60 m ²
7	榎作遺跡	
	調査の種類	確認調査
	調査地	千葉市中央区赤井町612番地
	調査の原因	その他建物（太陽光発電・資材置き場）建設
	原因者	株式会社アシストハウス
	調査担当者	井出祥子
	調査期間	令和元年6月6日～6月24日
	調査面積	5,335 m ² のうち536 m ²
8	大谷遺跡	
	調査の種類	確認調査
	調査地	千葉市緑区越智町1492
	調査の原因	その他の開発（太陽光発電設備）
	原因者	株式会社キャツ
	調査担当者	山下亮介・井出祥子
	調査期間	令和元年7月22日～7月31日
	調査面積	1,348 m ² のうち137 m ²
9	生実城跡	
	調査の種類	確認調査
	調査地	千葉市中央区生実町1145番3
	調査の原因	個人住宅
	原因者	株式会社ナミカワ不動産販売
	調査担当者	山下亮介
	調査期間	令和元年8月7日～8月8日
	調査面積	163.84 m ² のうち15 m ²
10	広ヶ作遺跡	
	調査の種類	確認調査
	調査地	千葉市若葉区小倉町1758番1他
	調査の原因	宅地造成
	原因者	株式会社かまとり住宅
	調査担当者	山下亮介・井出祥子
	調査期間	令和元年9月17日～10月11日
	調査面積	5,463.10 m ² のうち516 m ²



第1図 発掘調査遺跡位置図

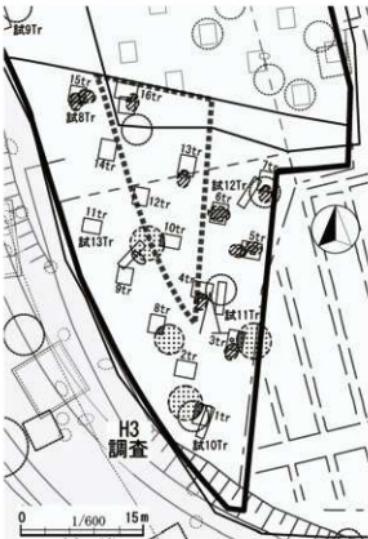
1 うならすず遺跡（第2・3図、第22図1～16。写真図版1-1～4、8上）

遺跡の概要 都川本谷の中流域から南に入る多部田支谷に面した標高30m～35mの千葉第2段丘上に立地する。これまで、平成2・3・5～7年度に千葉市平和公園建設に伴う調査を、平成12年度にはいづみ塩園の墓地造成に伴う調査を実施しており、合計で約33,000m²の本調査によって、縄文時代中期後葉から後期前葉の住居跡103軒、古墳時代から平安時代の住居跡22軒、掘立柱建物跡6棟、終末期方墳2基を検出している。周辺には広大な台地と段丘面が広がっており、公園建設に伴って貝塚遺跡、多部田貝塚、ムグリ遺跡、木戸作遺跡、内野遺跡、内野古墳群の調査を平成3年度から継続的に実施している。造成計画により遺跡の一部は公園内に保存されており、遺跡マップを作つて公開している。多部田貝塚は都川流域の後期大型貝塚群の一つである。保存状態は良好であり、下草が繁茂しない季節には環状の貝層の高まりがよくわかる。

当遺跡では、平成12年度の本調査によって、中期後葉・加曾利EIV式～後期初頭・称名寺式期の住居跡を多数検出しており、遺構の分布密度も稠密であった。確認調査のみ行われた範囲においても同時期の遺構を多数検出している。集落の東端や南端については未だ不明であるが、調査が行われた範囲だけをみても、この時期としては県内最大級の集落であり、後期の大型貝塚である多部田貝塚とは密接な関係があったものと推定される。出土遺物のなかでとくに注目されるのは大型石棒の破片が多数出土していることであり、群馬県大山山麓で製作した石棒の流通拠点とみられる。



第2図 うならすず遺跡地形図



第3図 うならすず遺跡遺構配置図

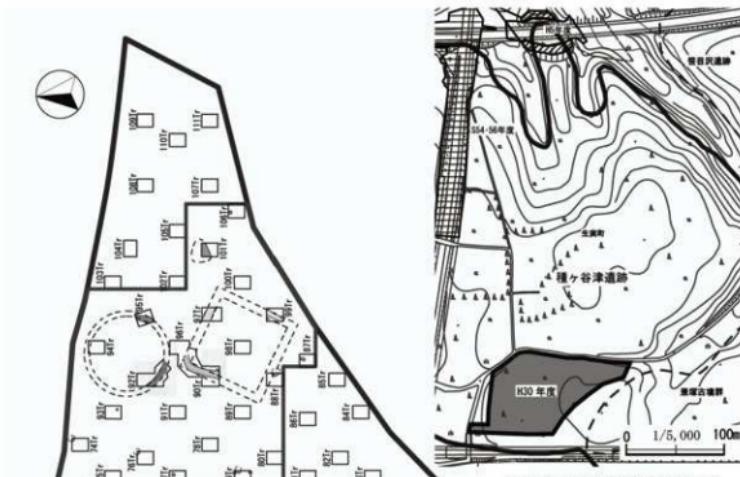
調査の結果 遺跡西端部の960 m²に16か所の確認トレンチを設けた。表土下の30~40 cmの縄文時代包含層の上部で遺構検出を行った結果、縄文時代の住居跡4軒、土坑13基を検出した。本調査の必要な範囲のうち200 m²を調査することとし、他は保存措置を講じた。確認調査の出土遺物は、旧石器時代（？）の剥片2点、縄文土器1,668点、縄文石器・磨石類1点・砥石（？）1点・剥片2点、弥生土器1点、土師器2点、中近世土器2点・瓦1点である。縄文土器は、6トレンチの240点が最多であった（堀之内式・加曾利EIV式の順）。なお、同トレンチ検出の細長い土坑は、土層断面により住居跡より古く、陥れ穴の可能性がある。確認調査全体の時期の判明した土器の内訳は、撫糸文系：2・諸磯系：2・阿玉台：2・加曾利EII～III：16・加曾利EIII～IV：128・称名寺：37・堀之内：169・加曾利B：7であり、代表的なものを図示した（第22図）。集落の中心からは離れているが、集落を形成した中期後葉から後期前葉の土器が、かなり多く廃棄された場所とみられ、集落範囲が斜面部に及ぶことが判明した。なお、すでに本調査を実施しており、住居跡1軒、土坑20基、焼土跡3基等を検出、整理箱8箱の土器が出土している。確認調査で出土した縄文土器のうち、6トレンチ出土の堀之内1式土器復元可能個体（図版1-6、本調査における1号住居跡に伴う）については、今年度刊行予定の本報告に図等を掲載する。

2 種ヶ谷津遺跡（第4・5図。写真図版1-5～2-2）

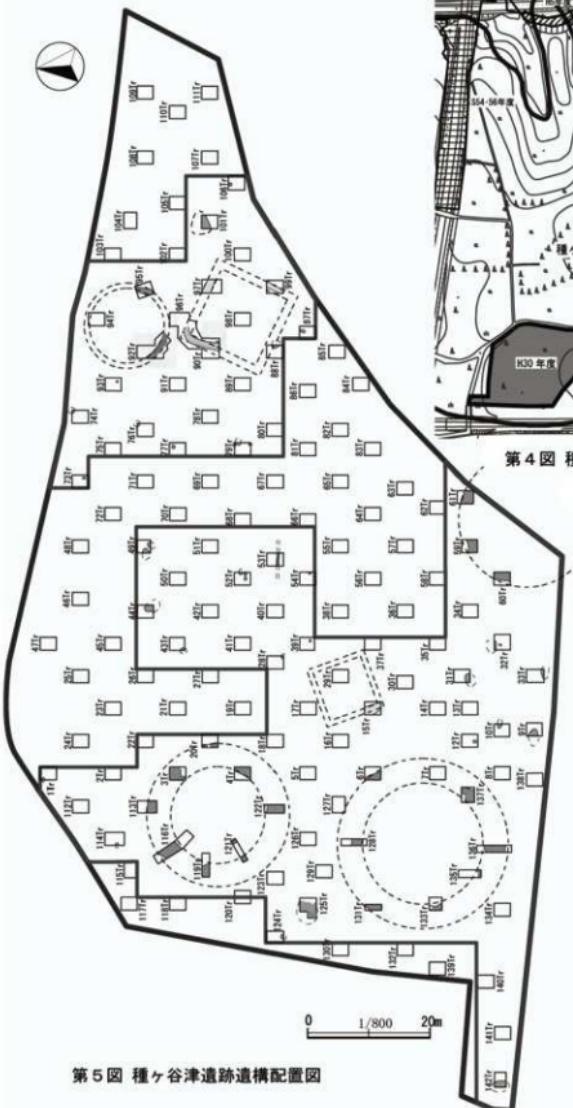
遺跡の概要 村田川水系の赤井支谷に面した台地上に立地する。標高は20~32mと南東から赤井支谷側に徐々に高度を減じる。昭和54~58年度、平成5・6、10、29・30年度に調査が行われており、10年度までの本調査で古墳時代後期を中心とした住居跡31軒を検出している。奈良時代の遺物集中層からは8世紀後半の土器が多量に出土しており、三彩小壺、神功開寶、「千葉口」銘墨書き土器など注目すべき遺物が多い。平成29年度の確認調査では住居跡等を検出し、ほぼ全域の本調査を行った。その結果、縄文時代1軒、古墳時代後期24軒の住居跡を検出した。令和2年3月に報告書刊行予定である。

同一台地上の東隣に佐目沢遺跡、西隣に大道遺跡が、北側の支谷の対岸には複数遺跡があり、いずれも千葉急行線建設に伴う調査で古墳時代後期主体の集落を検出している。千葉寺地区からおゆみ野地区にかけて分布する古墳時代後期ないし飛鳥時代に形成された大規模な開発型集落群のなかでも、とくに住居跡数が多い地区である。また、遺跡南東端は兼坂古墳群として一部範囲が重複した状態で登録されている。生実・椎名崎古墳群の一部を形成するものである。

調査の結果 遺跡南東部の外房線の北側の山林7,828 m²に142か所の確認トレンチを設定した。0.3m~0.5mの表土下で検出した遺構は後期古墳（円墳）4基、終末期方墳（方形周溝状遺構）2基、土坑34基、溝1条である。方墳はいずれも墳丘が遺存していなかった。本調査の必要な5,017 m²の取り扱いについて協議中である。出土した遺物は、縄文土器片8点（前期～中期。阿玉台～加曾利E）・土器片錐1点、古代土師器片3点、中近世土器類破片3点・文久永宝1点とごく少ない。古墳の周溝や土坑からは、遺構の年代を示す遺物は出土しなかった。住居跡の分布がこの地区まで及んでいないことから、集落から離れた墓域として利用された土地であったこと、及び南東側にある兼坂古墳群がこれまでの登録範囲より西側に広がることを確認することができた。



第4図 種ヶ谷津遺跡地形図



第5図 種ヶ谷津遺跡遺構配置図

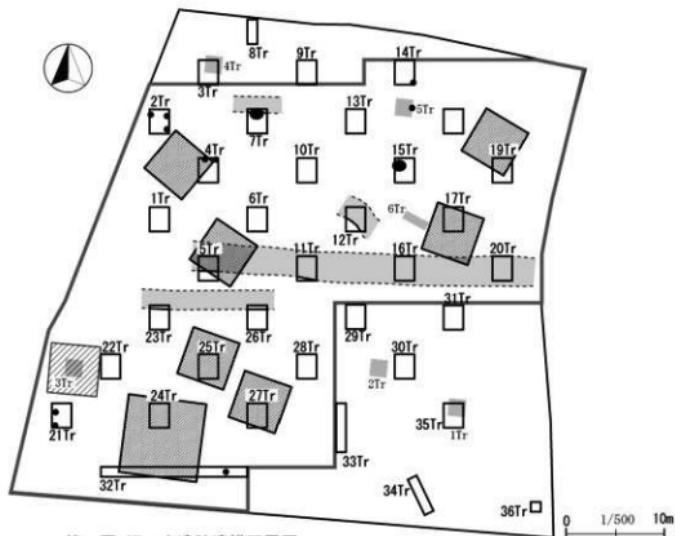
3 坪ノ内遺跡（第6・7図、第22図17~19。写真図版2-3~7、8下・9）

遺跡の概要 汐田川水系の岡生支谷に面した標高26mの台地上に立地する。南側の宮野木支谷との間に挟まれた比較的狭い台地上には馬場遺跡、小中台A遺跡、東ノ上貝塚があり、縄文中期後葉・加曾利E III式期の集落が集中している。さらに都川水系・蘿川流域にかけてこの時期ではもっとも稠密な集落地帯を形成している。当遺跡は過去の調査例がないが、東側に隣接する下田遺跡では昭和47年度から平成15年度にかけて断続的に調査が行われており、昭和59年度、平成8年度・15年度の合計8,101m²の本調査で古墳時代後期から平安時代の住居跡89軒、掘立柱建物跡15、中世遺構群を検出している。

調査の成果 遺跡北半の2,486m²に35か所の確認トレンチを設定し、住居跡7軒、柱穴9基、土坑2基を検出した。遺構確認面は、現地表面



第6図 坪ノ内遺跡地形図



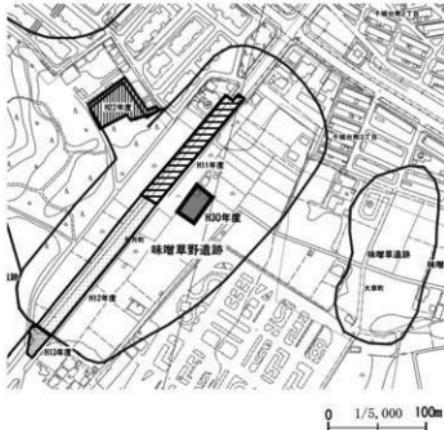
第7図 坪ノ内遺跡遺構配置図

ら 0.6m～1.0m あって深い。調査の結果を受けて、本調査の必要な 1,670 m²について保存措置を講じた。出土した遺物は、縄文土器片（晩期安行式）1点、土師器・須恵器片（平安）81点・羽口1点・スラグ1点、中近世土器類破片41点・寛永通寶（新寛永）1点・瓦6点・砥石1点・火打石1点・泥面子／人形5点・貝殻少量である。4トレンチ・5トレンチの住居跡で平安時代の土器がまとまっていたほか、広域で土器が出土しており、平安時代を中心とした集落の存在が明らかになった。また、11トレンチ・20トレンチの溝を中心として広域から近世の遺物が出土した。当遺跡や下田遺跡の所在する台地は、近世園生村の畠地等として利用されていた可能性が高い。

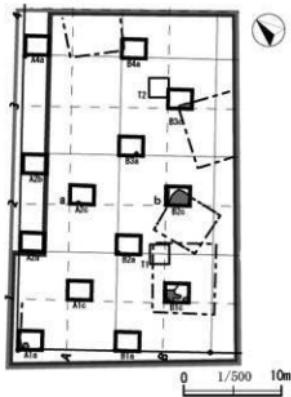
4 味噌草野遺跡（第8・9図、第22図23～26。写真図版2-8～3-2、8下）

遺跡の概要 都川本谷の中流域右岸の標高32mの台地上に立地する。遺跡の北端部以北は千城台団地であり、さら坊遺跡、蕨立遺跡が存在した。さら坊遺跡は、蕨立遺跡と対をなす中期の貝塚・集落であり、昭和40年度に簡単な調査が行われた。東側の味噌草遺跡は調査歴がない。当遺跡は平成11～13年度に市道建設に伴い6,533 m²の調査を実施しており、縄文時代の陥し穴6基・奈良・平安時代主体の住居跡13軒・掘立柱建物跡12棟・土坑28基を検出した。平成22年度には1,783 m²の確認調査で住居跡2軒ほかを検出している。

調査の結果 遺跡の中央の狭い範囲、810.49 m²に13か所の確認トレンチを設定し、0.4mほど表土下で住居跡5軒・柱穴6基・土坑2基を検出した。遺構の存在する720 m²について協議を行ったところ事業中止となり保存措置を講じた。出土した遺物は、土師器・須恵器72点・焼成粘土塊1点である。住居跡を検出したB1c・B2cトレンチ・試掘坑、土坑を検出したA2cトレンチを中心に平安時代の土器がまとまっており、この時期の遺構群が広がっていたと推定される。もっと多くの遺物が出土したのは試掘坑2か所のうちT1であり、第9図におよその位置を示した。



第8図 味噌草野遺跡地形図



第9図 味噌草野遺構配置図

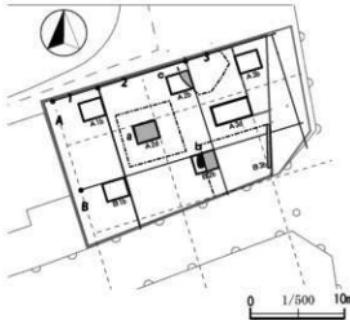
5 古山遺跡（第10・11図、第22図27～30。写真図版3-3～6、8下）

遺跡の概要 都川の支流坂月川西岸に面した標高23mの台地上に立地する。坂月川流域には多くの遺跡が存在する。小さな谷津を挟んで特別史跡加曾利貝塚、坂月川の対岸には広ヶ作遺跡・滑橋貝塚・柳沢遺跡など縄文時代中・後期の遺跡が集中している。当遺跡では昭和63年度、平成22・29・30年度に計約5,000m²の本調査（第1次～4次調査）が行われ、縄文時代早期末の集石を伴う土坑、前期末の住居跡3軒、中期中葉の住居跡1軒、古墳時代前期から中期の住居跡28軒が調査されている。縄文中期の遺物は少なく、加曾利貝塚に集落が形成された時期の土地利用は少なかったといえる。古墳時代の住居跡の大半は5世紀であり、短期間の集落とみられる。竪穴住居跡から三角板皮縁骨の一部が出土しており、注目されている。

調査の結果 遺跡東端部の394m²が対象となり、カクランを受けた範囲を除く部分に7か所のトレンチを設定した。0.6mの表土下で住居跡3軒と土坑1基を検出し、本調査の必要な220m²について保存措置を講じた。住居を検出したトレンチから古墳前期～中期の土器が出土している。住居跡を検出したトレンチの土器をみると、A2bトレンチは小片のみだが保存良い口縁部1点、B3bトレンチではやや大きな甕の破片1点がある。いずれも古墳前期～中期初頭の土器である。今回の調査により、この時期の集落が遺跡南東部まで広がっていることが明らかになった。また、対岸の加曾利貝塚に関連する縄文時代の遺物は乏しいことを追認することができた。なお、過去の工事においてA3bの東にあたる対象範囲の東側隣接地にも住居跡が存在することを確認している。



第10図 古山遺跡地形図

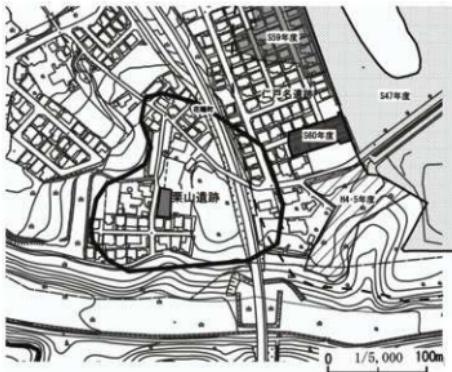


第11図 古山遺跡遺構配置図

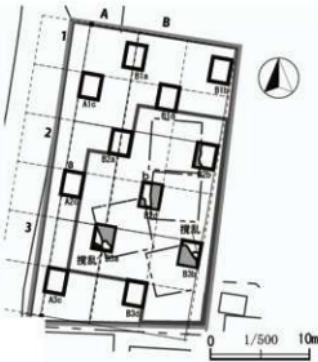
6 栗山遺跡（第12・13図、第23図31。写真図版3-7～4-2、9上）

遺跡の概要 村田川水系の生実谷・花輪支谷奥部の標高29mの台地上に立地する。これまでの調査歴はないが、東側に隣接する仁戸名遺跡では昭和46・59・60年度、平成3～5年度に合計13,630m²及び古墳の本調査で、古墳時代から平安時代の住居跡135軒、掘立柱建物跡9棟、古墳6基などを調査している。当遺跡はこの台地の西側先端部にあたるが、現在は京成千原線によって分断されている。

調査の結果 遺跡中央部の住宅地に隣接する597m²が対象となり、12か所の確認トレンチを設定した。その結果、0.3m～0.4mの表土下で古墳時代の住居跡4軒、土坑1基を検出した。調査結果を受けて、遺構の分布する255.3m²について取り扱いの協議中である。出土した遺物は、土師器・須恵器15点・スラグ1点である。住居を検出したB2bトレンチ・B2dトレンチ・B3aトレンチで複数の土器が出土している。点数は少なく小片ばかりであるものの、古墳時代後期の土器がまとまっている。概ね住居跡の年代を示すものとみられ、古墳時代後期の集落が仁戸名遺跡から当遺跡の範囲まで連続していることを確認することができた。



第12図 栗山遺跡地形図



第13図 栗山遺跡構造配置図

7 檻作遺跡（第14・15図、第23図33～41。図版4-3～5-2、10）

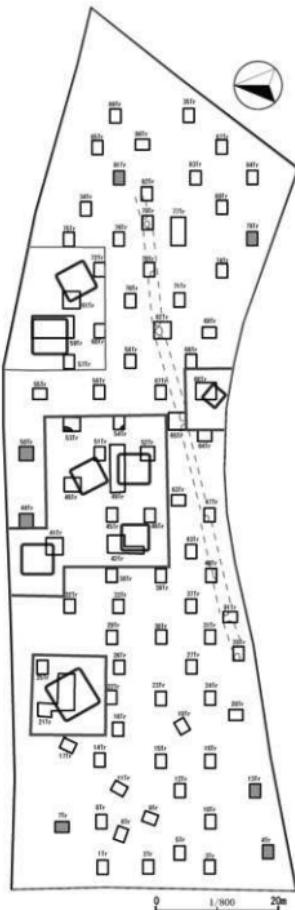
遺跡の概要 村田川水系の生実谷と赤塚支谷に挟まれた標高21mの広大な台地上に立地する。昭和60～62年度、平成9、11年度に合計約20,000m²の本調査が行われ、古墳時代後期から平安時代の住居跡248軒を検出している。平成24年には遺跡北東端付近の確認調査では住居跡6軒・掘立柱建物跡7棟を検出している。南側の支谷を挟んで種ヶ谷津遺跡、笛目沢遺跡、大道遺跡があり、いずれも千葉急行線建設に伴う調査で同時期の集落を検出している。千葉寺地区からおゆみ野地区にかけて分布する大規模な開発型集落群のなかでも、とくに住居跡が多い地区であり、当遺跡は住居跡の重複がとりわけ稠密である。

調査の結果 遺跡中央部の5,335 m²が対象となり、91か所の確認トレンチを設定した。その結果、北部で0.1~0.2m、南部で0.3~0.4mの表土下で、奈良時代の住居跡8軒・土坑2基、近世の溝1条を検出した。調査結果を受けて、本調査の必要な1,100 m²について取り扱いを協議中である。出土した遺物は、土師器・須恵器541点・鉄床石1点・スラグ2点、手捏ね土器1点、中近世土器類7点である。住居跡を検出したトレンチのうち、21トレンチでは古墳時代後期の土器が、59トレンチ・66トレンチでは平安時代の土器がまとまって出土した。66トレンチでは、土器のほかに鉄床石、台石、スラグ、焼成粘土塊、炭化材が出土しており（図版10左下）、周囲に小鍛冶関連遺構の存在する可能性が高い。また、住居跡のカマドには軟砂岩の切石が使われていた（図版10右下）。非常に軟質のこの石材の利用は、ほぼ古墳の石室に限られており、古墳から抜き取って再利用したものとみられる。

全体として奈良・平安時代の土器が大半を占めている。過去の調査で集落の存在が確認されていた2つの地区はかなりの距離をもつが、その間にも古代の遺構群が展開していることが明らかになった。



第14図 櫻作遺跡地形図

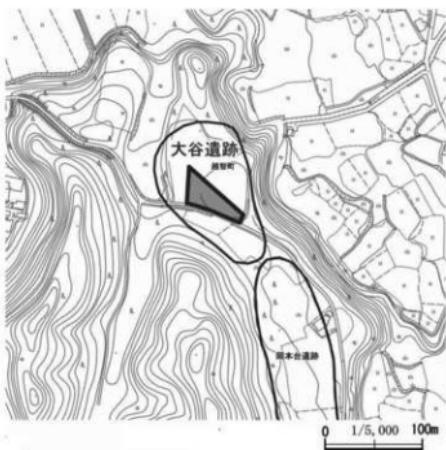


第15図 櫻作遺跡遺構配置図

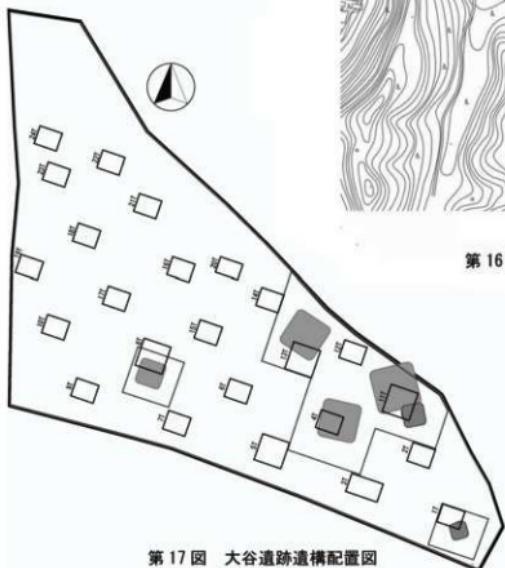
8 大谷遺跡（第16・17図、第23図44・45。写真図版5-3～7、11上）

遺跡の概要 村田川本谷中流域を望む標高43mの低位段丘上に立地する。包蔵地の分布が薄い地域であり、南側の岡本台遺跡も含めて調査歴がない。1kmほど南には、広域にわたる発掘調査を行った土気緑の森工業団地（大野台遺跡群）があるが、それ以外の調査は広域でみても乏しいため、今のところ土地利用の実態は不明な点が多い。

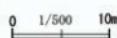
調査の結果 遺跡の中央部の1,348m²に24か所のトレンチを設定したところ、0.3～0.4mの表土下で住居跡4軒、土坑2基を検出した。トレンチャー（溝掘機械）によって攪乱された部分が多く、その部分については一部を掘り下げて遺物の回収を行った。出土した遺物は、縄文土器片3点（阿玉台・加曾利E前半各1）、土師器・須恵器86点である。住居跡を検出した4トレンチ・8トレンチ・11トレンチを中心として、奈良時代から平安時代の土器が多く、この時期に集落が形成されていたことが明らかになった。図版5-5は、8トレンチの住居跡カマドの両脇から土器が出土している状況である。これまで発掘成果の乏しかった東京湾側と九十九里側の中間付近の集落形成を示す事例として貴重な成果といえる。



第16図 大谷遺跡地形図



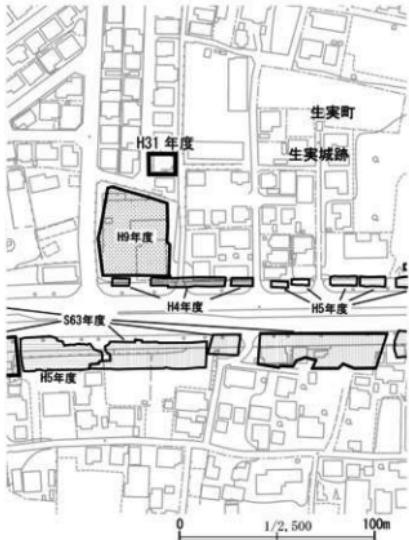
第17図 大谷遺跡遺構配置図



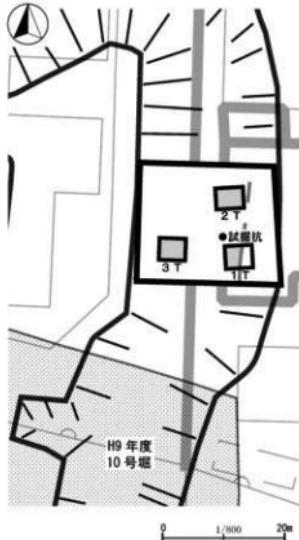
9 生実城跡（第18・19図。写真図版5-8～6-2、11下）

遺跡の概要 村田川河口の北側に張り出す32万m²に及ぶ台地・段丘面上の南北約800m、東西約700mを城域としている。現在の標高は17～21mだが中世以降の造成による改変が大きく及んでいる。中心部分は、昭和40年代以降の造成によって大きく損なわれているが、昭和63年から平成9年にかけて、約22,500m²の本調査を断続的に実施しており、中・近世の遺構・遺物が数多く出土している。その結果、中世城郭と近世・森川藩の陣屋跡について、構造や年代がかなり明らかになった。そのほか弥生後期から平安時代の住居跡、掘立柱建物跡もみつかっている。

調査の結果 対象範囲(163.84m²)は、中世城域のうち、東端の「天神山」と呼ばれる部分にある。東側には森川藩陣屋跡があり、中世城と陣屋の間を通る通路状の曲輪を区画する堀の推定範囲にある。その存在を確認するために設定した3トレンチすべてで堀とみられる落込みを検出し、1トレンチでその東端を捉えることができた。全面調査を必要とすることが判明したため、造成にあたり保存措置を講じた。検出した堀は平成9年度調査の10号堀(箱薬研堀)にあたる。なお、東端部が堀の推定図と大きくずれているのは1.6mの厚い表土・盛土の下で検出したためである。出土遺物は1トレンチ北西の試掘坑の中近世土器2点、瓦2点がすべてである。図版11下は試掘坑付近の盛土中から出土し、持ち帰った五輪塔の火輪である。21×20cm、高さ14cmを測り、重量は9kgである。全体にゆがみがあり、稜は不明瞭である。上面にはごく浅いほぞ穴をもつ。上下面には上下の石材との圧着痕が明瞭に認められる。



第18図 生実城跡地形図



第19図 生実城跡遺構配置図

10 広ヶ作遺跡 (第20・21図、第24図47~56・63。写真図版6-3~7-8、12)

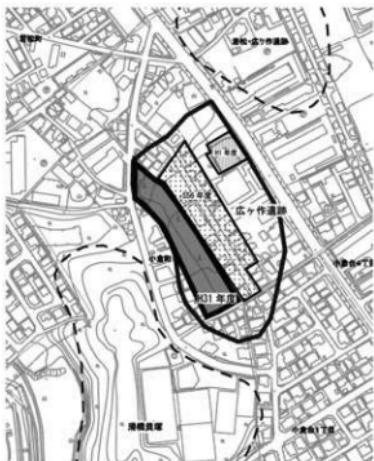
遺跡の概要 都川の支流坂月川最奥部東岸に面した標高29mの台地上に立地する。坂月川流域には多くの遺跡が存在する。隣接する滑橋貝塚・柳沢遺跡、坂月川西岸の特別史跡加曾利貝塚など縄文時代中・後期の遺跡が集中している。昭和56年度の約5,000m²の確認・本調査で、加曾利EⅡ式新-EⅢ式の住居跡7軒(すべてに遺構内貝層)、炉7基を検出している。平成元年度には888m²に対して20か所の確認トレンチを設定したが遺構を検出しなかった。昭和56年・62年に採取した貝サンプルの分析結果を今年度末刊行の加曾利貝塚研究紀要46号に所収する。

調査の結果 5463.1m²の範囲に34か所のトレンチを設定した結果、縄文時代の住居跡3軒・土坑3基を検出した。遺構を検出した254m²について本調査を実施し、年度末に報告予定である。

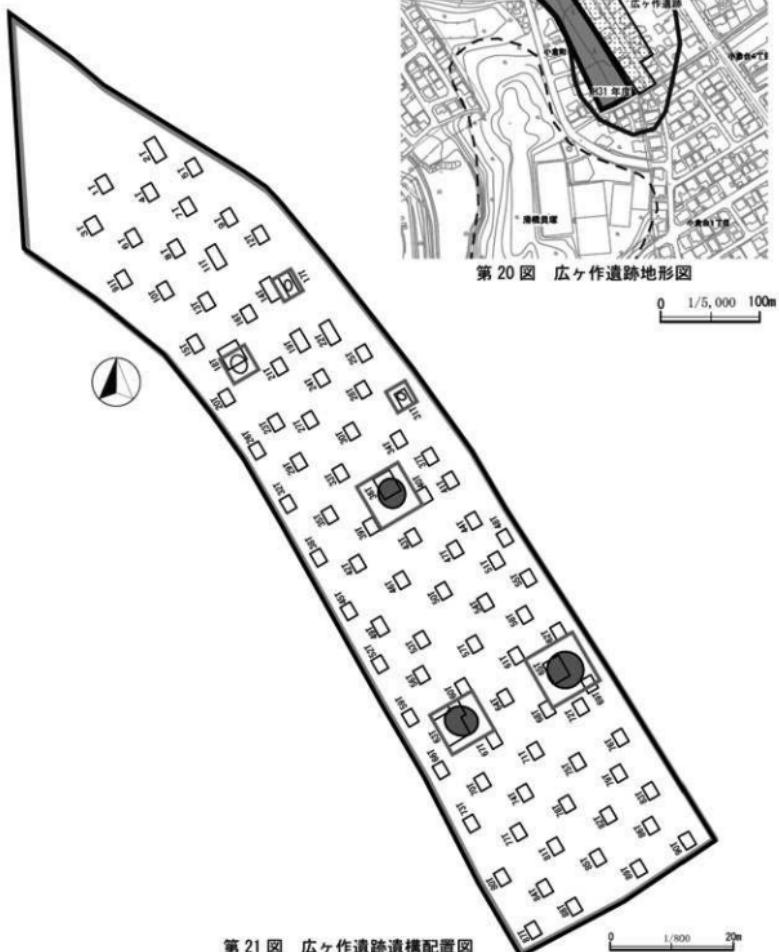
出土遺物は多い(縄文土器1,077点、石器・石製品15点、礫13点)。土器のほとんどは加曾利EⅢ式である。石器は槍形尖頭器1点、磨製石斧1点(磨石類に転用)、磨石類2点、石皿・台石6点、剥片類4点である。なお、本調査を実施した17・18・31・63・65トレンチの復元可能な土器と石器は本報告に掲載予定であり、本書では点数のみとした。17トレンチ検出の土坑は貝層を伴っており(図版6-5)、遺構確認で露出した貝層の一部を回収した。31トレンチからは深鉢が倒立状態で出土した(図版6-7・8)。これらは本調査対象のため本報告に所収する予定である。

第1表 出土遺物

図版 No.	図版 位置	時代	種別1	種別2	注記	備考
1	08上	015ならすず	縄文	土器	縄文土器	02T-土山 既存文土器、口唇肥厚、RL縦溝文
22	2 08上	015ならすず	縄文	土器	縄文土器	10T-土山 既存文土器、口唇角詰め、既存文、施文
22	3 08上	015ならすず	縄文	土器	縄文土器	15T-土山 加曾利EⅢ式波状口縦深溝、既存縦意匠文、基盤FL
22	4 08上	015ならすず	縄文	土器	縄文土器	15T 加曾利EⅢ式波状口縦深溝、既存縦意匠文、基盤FL
22	5 08上	015ならすず	縄文	土器	縄文土器	15T-土山 加曾利EⅢ式波状口縦深溝、既存縦意匠文、基盤LR
22	6 08上	015ならすず	縄文	土器	縄文土器	15T 加曾利EⅢ式波状口縦深溝、既存縦意匠文、基盤LR
22	7 08上	015ならすず	縄文	土器	縄文土器	14T 既存寺式平縦深溝、既存縦意匠文、单脚LR
22	8 08上	015ならすず	縄文	土器	縄文土器	3T-№1 既存寺式平縦深溝、既存縦意匠文、单脚LR
22	9 08上	015ならすず	縄文	土器	縄文土器	16T 既存寺式平縦深溝、口縁太沈底直面、以下单脚LR
22	10 08上	015ならすず	縄文	土器	縄文土器	7T 既存内I式平縦深溝、沈底・刻文変化、单脚LR
22	11 08上	015ならすず	縄文	土器	縄文土器	13T 既存内II式平縦深溝、单脚LR、沈底意匠文・意匠文
22	12 08上	015ならすず	縄文	土器	縄文土器	9T-土山 既存内II式平縦深溝、L型(筋不明显)・竹口内面平行沈縫區画・意匠文
22	13 08上	015ならすず	縄文	土器	縄文土器	9T-土山 既存内II式平縦深溝、L型(筋不明显)・竹口下に刻み隆起、内面に沈縫
22	14 08上	015ならすず	縄文	土器	縄文土器	5T-土山 既存内II式平縦深溝、L型(筋不明显)・竹口下に指押线条帯、筋不明显LR
22	15 08上	015ならすず	縄文	土器	縄文土器	4T 既存内II式平縦深溝、单脚LR、沈底意匠文
22	16 08上	015ならすず	縄文	土器	縄文土器	4T-土山 既存内II式平縦深溝、单脚LR、沈底意匠文
22	17 08下	03坪内	古墳	須恵器	確認4T 既存縫合、外縫ケズリ、内面ナメ	
22	18 08下	03坪内	古墳	土師器	確認4T 既存縫合、口縁ロクナメ、以下ナメ。粘土縫合痕あり	
22	19 08下	03坪内	古墳	土師器	確認4T 高台付杯、高台・内外面ロコロナメ	
-	20 09上	03坪内	古代	土師器	羽口D フジワ羽口基部小片、外表面剥離色、ガラス化	
-	21 09上	03坪内	古代	金皿	未注記 網目浮き? 小片、気泡混入、透過程り	
-	22 09下	03坪内	中近世	土器	土器 既存縫合痕、走査・断面(イエカ・基石等)、喜水通質、鑿石	
22	23 08下	048横堀野原	古代	土器	A2e 既存縫合、外縫ケズリロコロナメ	
22	24 08下	048横堀野原	古代	土器	D2c 既存縫合、内面ロコロナメ	
22	25 08下	048横堀野原	古代	土器	試掘1T 既存縫合、外縫ロコロナメ、内面無ミガキ、内面～外縫口縦黒色	
22	26 08下	048横堀野原	古代	土器	確認22c 既存縫合、外縫明き、下縫ケズリ、内面ナメ	
22	27 08下	05古山	縄文	土器	確認A1b 既存安能無縫合跡、口縁後半に引け剥裂、下縫沈縫。鋼部条縫	
22	28 08下	05古山	古墳	土器	確認B3b 住跡跡出土、土師器裏面部、外縫ハゲ	
22	29 08下	05古山	古墳	土器	確認B3c 住跡跡出土、土師器裏面部、外縫ハゲ	
22	30 08下	05古山	古墳	土器	確認B3d 住跡跡、竹面回転ケズリ、内面ロコロナメ	
22	31 08下	06瀬山	古墳	土器	B2d 既存縫合、口縁ヨコナメ、体部暗いナメ	
-	32 09上	06瀬山	古墳	金皿	ラグ2 既存縫合、既存度あり	
23	33 10上	07復作	古代	土師器	21T 既存縫合～原上部、口縁ヨコナメ、体部暗いナテケズリ	
23	34 10上	07復作	古代	須恵器	49T 既存縫合コナメ、外縫ケズリナメ、内面ナメ	
23	35 10上	07復作	古代	須恵器	59T 既存縫合、口縁ヨコナメ、外縫ケズリ・既存縫合ナメ、内面ナメ	
23	36 10上	07復作	古代	土師器	59T 既存縫合～崩部、口縁ヨコナメ、外縫ケズリ指揮齊さん、以下崩しないで、内面ヘナナデ	
23	37 10上	07復作	古代	須恵器	59T 既存縫合～崩部、口縁ヨコナメ、外縫ケズリ・既存縫合ナメ、内面ナメ	
23	38 10上	07復作	古代	須恵器	59T 既存縫合、口縁ヨコナメ、外縫ケズリ・既存縫合ナメ、内面ナメ	
23	39 10上	07復作	古代	土師器	66T 既存縫合、高台付ロコロナメ、内面ヘナマギキ	
23	40 10上	07復作	古代	土師器	16T 既存縫合～崩部、外縫ヨナメナデ凸凹残す、内面ヘナナデ	
23	41 10上	07復作	古代	土師器	66T 既存縫合遺迹、鉄石(巨大標石破片の平滑面敵か所に鉄付箋)、台石(黒炭する平坦面もつ片)、ラグ3(横型薄含む)、度化材、鐵付土石(伊壁?)	
-	42 10下	07復作	古代	一括	略(1) -	
-	43 10下	07復作	古代	一括	古代一括② -	カドリ青系材、未固結の散砂岩、方柱状切石、古墳石室軒用の可能性高い

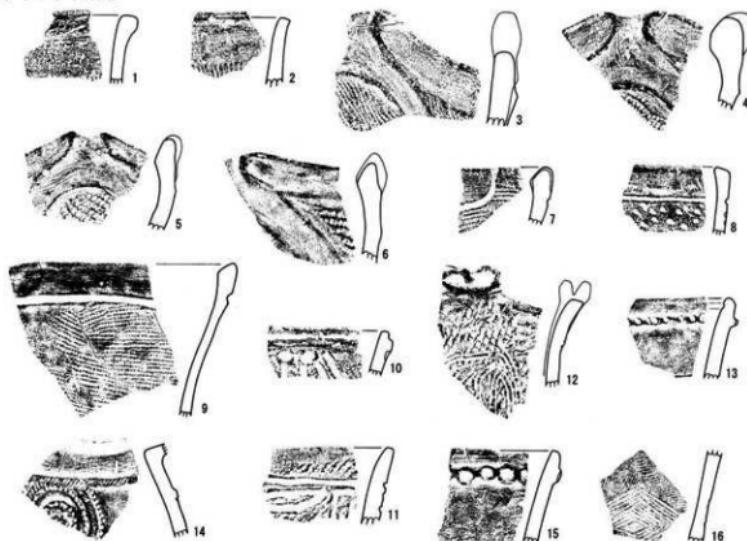


第20図 広ヶ作遺跡地形図



第21図 広ヶ作遺跡遺構配置図

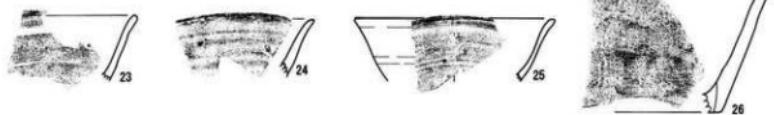
うならすず遺跡



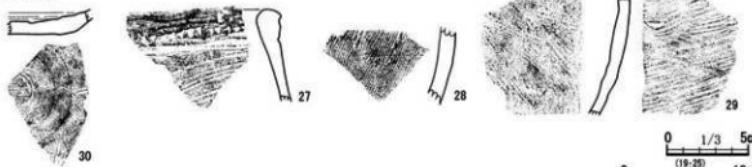
坪ノ内遺跡



味噌草野遺跡



古山遺跡



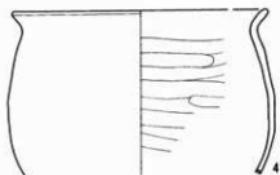
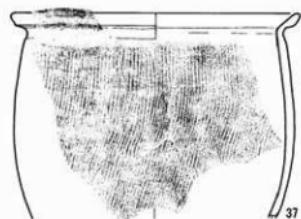
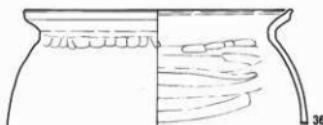
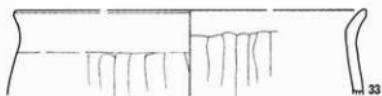
第22図 出土遺物(1)

0 1/3 5cm
0 (1/3) 10cm

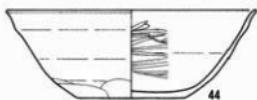
栗山遺跡



操作遺跡



大谷遺跡

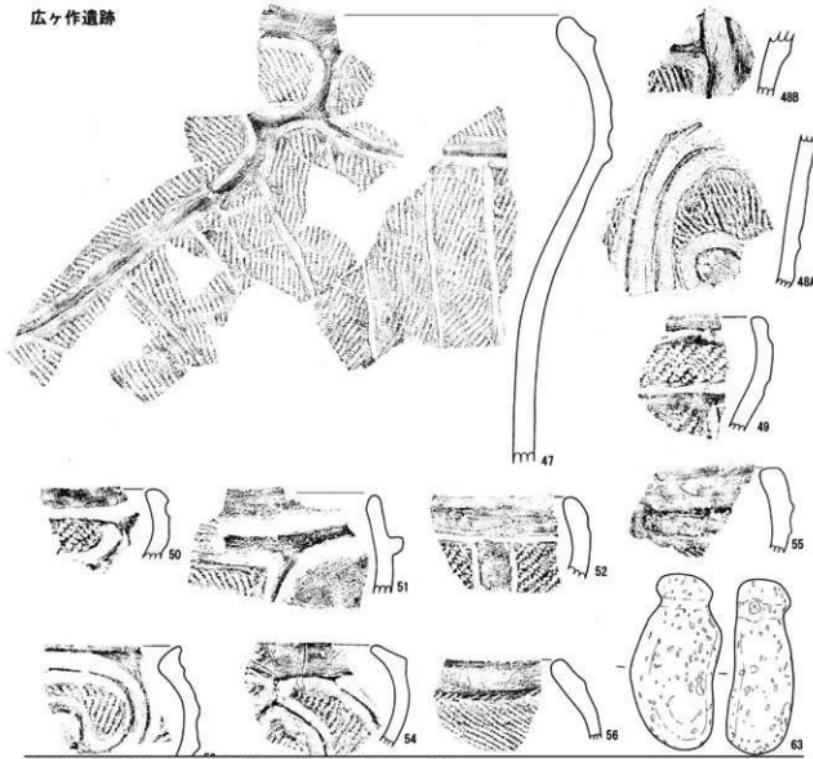


0 1/3 5cm

0 1/4 10cm

第23図 出土遺物(2)

広ヶ作遺跡



範囲	No.	図版	遺跡	時代	種別1	種別2	注記	備考
23	44	11上	08大谷	古代	土器	土軽器	BT-2	大口。口縁三ナギ。外面部部ロクロナギ。下縁・底面へラケズリ。内面部へラナギ下縁へラガキ。内面一部被熱。灰が残けて固着
23	45	11上	08大谷	古代	土器	土軽器	2T	高台付。高台・外面部ロクロナギ。内面へラガキ。黒色処理
-	46	11下	09生美城跡	中近世	石製品	五輪壇	試掘	五輪壇火鉢。21×20×高14cm. 9kg. やや歪で接縫弱い。軒口上面径7×深2cmの
24	47	12上	10広ヶ作	縄文	土器	純文土器	11T	加賀利一・三式キャリーパー形。口部曲面に網部沈線逆U字状真入。RL
24	48	12上	10広ヶ作	縄文	土器	純文土器	2T	加賀利一式意匠足充系か。複縫線やや幅広。RL
24	49	12上	10広ヶ作	縄文	土器	純文土器	確認 79T	加賀利一式キャリーパー形。口縁凹面は沈線のみ。RL
24	50	12上	10広ヶ作	縄文	土器	純文土器	確認 79T	加賀利一・三式キャリーパー形。茎状口縁。RL
24	51	12上	10広ヶ作	縄文	土器	純文土器	確認 47T	加賀利一式。口縁凹面無沈線下に階級區画・意匠文。RL
24	52	12上	10広ヶ作	縄文	土器	純文土器	確認 47T	加賀利一・二式。平底圓底。無口縁下沈線凹面。体部經沈線。RL
24	53	12上	10広ヶ作	縄文	土器	純文土器	7TT	加賀利一式意匠足充系。無口縁下沈線凹面。RL
24	54	12上	10広ヶ作	縄文	土器	純文土器	61T	加賀利一式意匠足充系。無口縁下沈線凹面。RL
24	55	12上	10広ヶ作	縄文	土器	純文土器	2T	加賀利一式意匠足充系。無口縁下沈線凹面。RL
24	56	12上	10広ヶ作	縄文	土器	純文土器	11T	加賀利一式水井。平底深井。無口縁下沈線凹面。RL等にかかる
57	57	12下	10広ヶ作	縄文	石器	尖削器	70T	複合制。茎をわざかに尖削。自然底・主要側面面接す
-	58	12下	10広ヶ作	縄文	石器	剥片類	41T	チートト、両端打穴による複数片たは素材
-	59	12下	10広ヶ作	縄文	石器	磨石類	8T	厚い棒円錐、敲打・磨底跡。被焼にこり破碎
-	60	12下	10広ヶ作	縄文	石器	台石	14T	巨大塊の一部。周縁削と平面に敲打痕
-	61	12下	10広ヶ作	縄文	石器	石皿	83T	巨大塊石皿の一部。凹面の一部過存
-	62	12下	10広ヶ作	縄文	石器	石皿	27T	巨大塊石皿の一部。凹面の一部過存
24	63	12下	10広ヶ作	縄文	石製品	軽石製品	26T	高さ104mm. 斜丸斜側面面側から先貫通孔。垂動か

写真図版 1



1 うならすず遺跡 調査区近景



2 うならすず遺跡 3 トレンチ



3 うならすず遺跡 6 トレンチ（土坑）



4 うならすず遺跡 6 トレンチ（土器）



5 種ヶ谷津道路 調査前



6 種ヶ谷津道路 15 トレンチ（方墳）



7 種ヶ谷津道路 90・96 トレンチ（方墳）



8 種ヶ谷津道路 92 トレンチ（円墳）

写真図版 2



1 種ヶ谷津遺跡 095トレンチ(円墳)



2 種ヶ谷津遺跡 116トレンチ(円墳)



3 坪ノ内遺跡 調査前



4 坪ノ内遺跡 4トレンチ



5 坪ノ内遺跡 5トレンチ



6 坪ノ内遺跡 7トレンチ



7 坪ノ内遺跡 19トレンチ



8 味噌草野遺跡 調査前



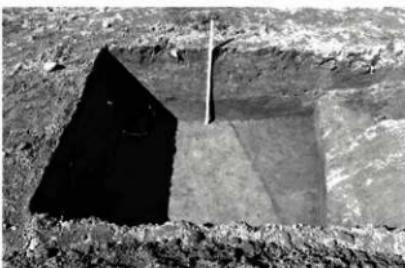
1 味噌草野遺跡 B2c



2 味噌草野遺跡 B4a



3 古山遺跡 調査風景



4 古山遺跡 A2b



5 古山遺跡 A2d



6 古山遺跡 B2b



7 栗山遺跡 調査風景



8 栗山遺跡 B3a

写真図版 4



1 栗山遺跡 B3b



2 栗山遺跡 B2b



3 梶作遺跡 調査前



4 梶作遺跡 21トレンチ



5 梶作遺跡 41トレンチ



6 梶作遺跡 42トレンチ



7 梶作遺跡 48トレンチ



8 梶作遺跡 49・52トレンチ



1 櫻作遺跡 59トレンチ



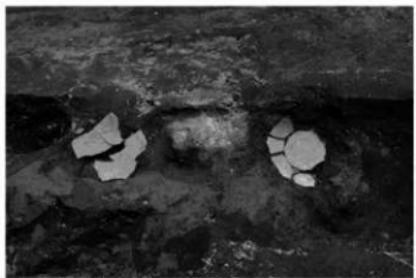
2 櫻作遺跡 61トレンチ



3 大谷遺跡 調査前



4 大谷遺跡 8トレンチ(1)



5 大谷遺跡 8トレンチ(2)



6 大谷遺跡 13トレンチ



7 大谷遺跡 11トレンチ

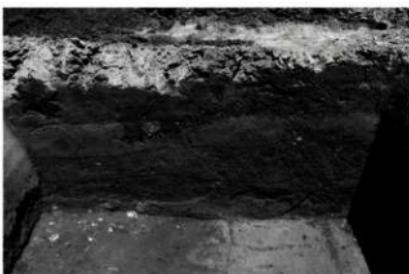


8 生実城跡 調査前

写真図版 6



1 生実城跡 1トレンチ(1)



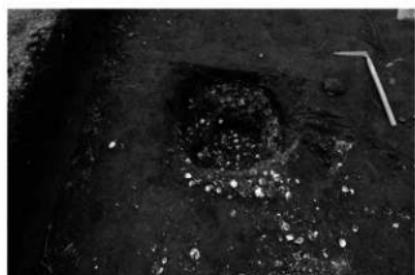
2 生実城跡 1トレンチ(2)



3 広ヶ作遺跡 調査前



4 広ヶ作遺跡 17トレンチ



5 広ヶ作遺跡 17トレンチ貝層



6 広ヶ作遺跡 31トレンチ



7 広ヶ作遺跡 31トレンチ土坑土器(1)



8 広ヶ作遺跡 31トレンチ土坑土器(2)



1 広ヶ作遺跡 63トレンチ



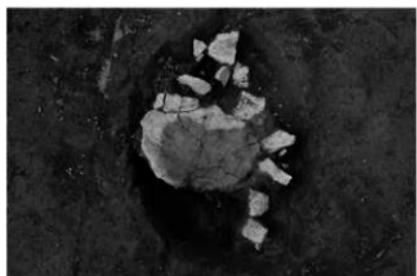
2 広ヶ作遺跡 63トレンチ



3 広ヶ作遺跡 63トレンチ土器 1



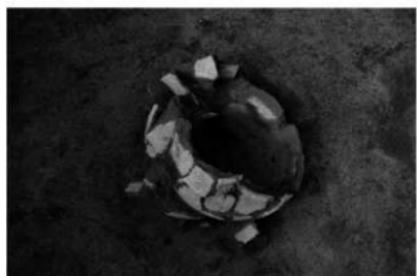
4 広ヶ作遺跡 63トレンチ土器 2 (1)



5 広ヶ作遺跡 63トレンチ土器 2 (2)



6 広ヶ作遺跡 65トレンチ

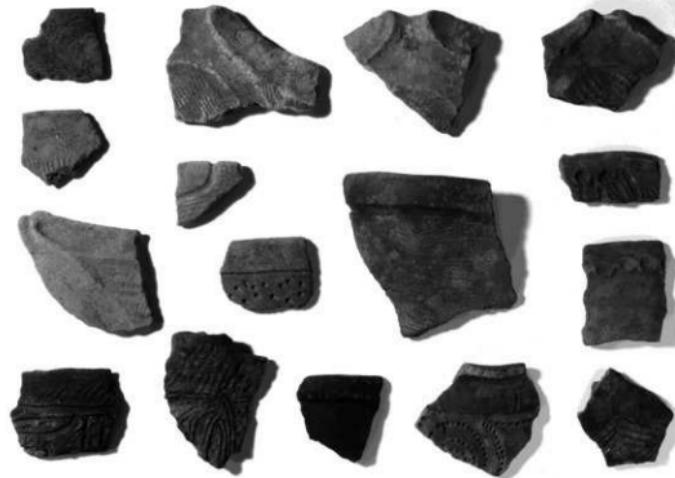


7 広ヶ作遺跡 65トレンチ土器 1

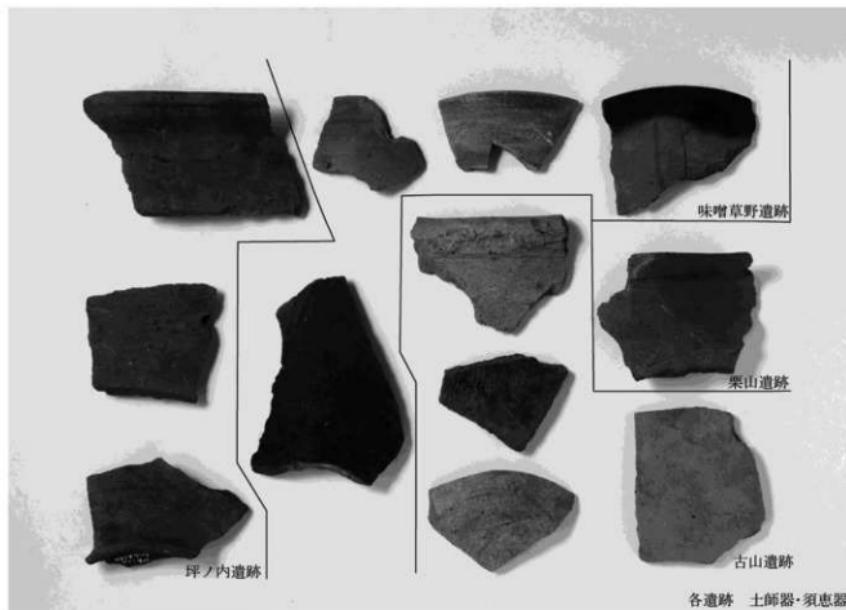


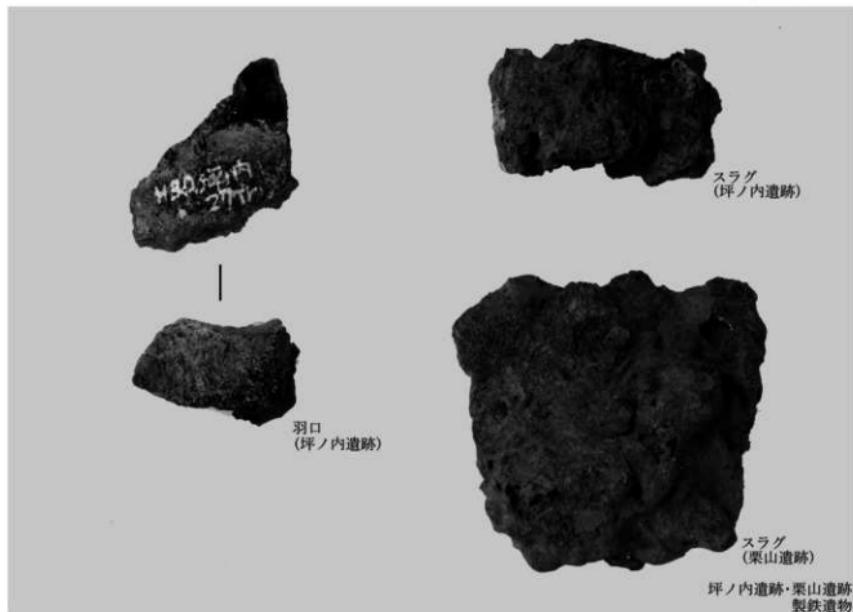
8 広ヶ作遺跡 65トレンチ土器群

写真図版 8



うならすづ遺跡
縄文土器





坪ノ内遺跡
中・近世遺物



複作遺跡
土師器・須恵器



複作遺跡
製鉄所遺物



複作遺跡
石材



大谷遺跡
土師器



生実城跡
五輪塔



広ヶ作遺跡
縄文土器



広ヶ作遺跡
石器・石製品

報告書抄録

ふりがな	まいぞうぶんかざいちょうさ（しないいせき）ほうこくしょ
書名	埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書
副書名	—令和元年度—
巻次	
シリーズ名	市内遺跡報告書
シリーズ番号	第32冊目
編著者名	西野雅人
編集機関	千葉市埋蔵文化財調査センター
所在地	〒260-0814 千葉市中央区南生実町1210 TEL. 043-266-5433
発行年月日	西暦2020年3月27日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		経緯度		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
うならすず遺跡	若葉区 多部田町1175, 1176 -1の一部	12104	若葉区 -206	35° 33' 59"	140° 9' 33"	20190121～ 20190130 (確認調査)	80/ 960m ²	その他の開発 (墓地造成)
稚ヶ谷津遺跡	中央区 生実町2548-4他	12101	中央区 -130	35° 33' 59"	140° 9' 33"	20190204～ 20190301 (確認調査)	710/ 7,828m ²	その他の開発 (グラウンド整備)
坪ノ内遺跡	稻毛区 園生町607他	12103	稻毛区 -43	35° 38' 49"	140° 6' 21"	20190219～ 20190301 (確認調査)	184/ 2,486m ²	その他の開発 (太陽光発電設備)
味噌草野遺跡	若葉区 坂月町316-2他	12104	若葉区 -164	35° 36' 58"	140° 11' 1"	20190319～ 20190322 (確認調査)	65/ 810.49m ²	集合住宅建設
古山遺跡	若葉区 加曾利町1800番13 8他	12104	若葉区 -135	35° 37' 7"	140° 10' 2"	20190308～ 20190311 (確認調査)	38/ 394.05m ²	個人住宅建設
栗山遺跡	中央区 花輪町16番1	12101	中央区 -78	35° 34' 30"	140° 9' 33"	20190508～ 20190513 (確認調査)	60/ 597m ² ,	その他建設 (建売住宅)建設
榎作遺跡	中央区 赤井町612番地	12101	中央区 -99	35° 34' 17"	140° 9' 40"	20190606～ 20190624 (確認調査)	536/ 5,335m ²	その他建物 (太陽光発電・ 資材置き場)建設
大谷遺跡	緑区 越智町1492	12105	緑区 -253	35° 31' 40"	140° 13' 59"	20190722～ 20190731 (確認調査)	137/ 1,348m ²	その他の開発 (太陽光発電設 備)
生実城跡	中央区 生実町1145番3	12101	中央区 -123	35° 33' 53"	140° 08' 44"	20190807～ 20190808 (確認調査)	15/ 163.84m ²	個人住宅
広ヶ作遺跡	若葉区 小倉町1758番1他	12104	若葉区 -116	35° 37' 50"	140° 10' 04"	20190917～ 20191011 (確認調査)	516/ 5,463.10m ²	宅地造成

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
うならすず遺跡	包蔵地 集落跡	縄文時代	竪穴住居跡 土 坑 燒土跡	1軒 20基 3箇所	縄文土器・磨石類 縄文時代中・後期（加曾利EⅢ式～堀之内式）の土器が多数出土。
種ヶ谷津遺跡	包蔵地 集落跡	縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代	後期古墳 終末期方墳	4基 2基	縄文土器・土器片錐 土師器
坪ノ内遺跡	包蔵地	平安時代 中近世	竪穴住居跡 柱 穴 土 坑 溝	7軒 9基 2基 6基	土師器・須恵器・羽口 ・スラグ 土器・錢・瓦・砥石・火打石・泥面子・人形 平安時代の製鉄関連遺物 あり。中近世遺物出土。
味増草野遺跡	包蔵地	平安時代	竪穴住居跡 柱 穴 土 坑	5軒 6基 2基	土師器・須恵器
古山遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡 土 坑	3軒 1基	土師器・須恵器
栗山遺跡	包蔵地	古墳時代	竪穴住居跡 土 坑	4軒 1基	土師器・須恵器 スラグ
榎作遺跡	包蔵地 集落跡 貝塚	古墳時代 奈良・平安時代 中近世	竪穴住居跡 土 坑 溝	8軒 2基 1条	土師器・須恵器 土師器・須恵器・鉄床 石・スラグ・手捏ね土器 土器 奈良・平安時代の大規模 集落の一画を調査。製鉄 関連遺物出土。
大谷遺跡	包蔵地	縄文時代 奈良・平安時代	竪穴住居跡 土 坑	4軒 2基	縄文土器 土師器・須恵器 調査の少ない地域で古代 集落を確認。
生実城跡	城館跡 集落跡	中近世	塹		土器・瓦・五輪塔 中世城郭と陣屋跡間の塹 の上面を確認。
広ヶ作遺跡	集落跡 貝塚	縄文時代	竪穴住居跡 土 坑	3軒 3基	縄文土器 縄文石器・石製品 加曾利EⅢ式土器が多数 出土。
要 約	うならすず遺跡：縄文時代の住居跡と土坑等を検出し多量の土器が出土。その後200mの本調査を実施し、 住居跡1軒・土坑20基・焼土跡3基等を検出。報告書刊行予定。 種ヶ谷津遺跡：古墳後期から終末期の古墳（円墳4基・方墳2基）を検出したが、遺物はごく少なかった。 坪ノ内遺跡：初の調査。住居跡7軒等を検出。平安時代の集落跡とみられる。中近世遺物も多い。 味増草野遺跡：住居跡5軒ほかを検出した。土師・須恵器が多く出土。平安時代中心の集落と推定される。 古山遺跡：住居跡3軒等を検出。古墳時代前期～中期の土器が出土、該期集落の広がりを確認できた。 栗山遺跡：初の調査で住居跡4軒を検出。古墳時代後期集落の可能性が高く、仁戸名遺跡から連続する。 榎作遺跡：奈良・平安時代の集落の一部を調査した。平安時代の遺構に伴う小鐵冶関連遺物が出土した。 大谷遺跡：遺跡中央で住居跡4軒等を検出。奈良・平安時代の集落の存在を確認することができた。 生実城跡：中世城と近世陣屋間の曲輪区画塙を確認。盛土中から発見した五輪塔を所収した。 広ヶ作遺跡：縄文時代の住居跡3軒ほかを検出し、すでに必要な範囲の本調査が実施されている。土器のは とんどは加曾利EⅢ式であり、石器・石製品も出土した。				

埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書

－令和元年度－

発行日 令和2年3月27日

発行 千葉市教育委員会
〒260-8730
千葉市中央区問屋町1番35号
千葉ポートサイドタワー11・12階
TEL 043-245-5962
(生涯学習部文化財課)

印刷 株式会社みつわ
〒261-0002
千葉県千葉市美浜区新港213-5
TEL 043-243-1511